

★暗唱聖句

「御主人様、今年もこのままにしておいてください。」

ルカによる福音書 13章8節

★ねらい

- ・悔い改めなければならないということ以上に、イエスが愛と忍耐をもって待っておられるということ伝えたい。

★ポイント

- ・前半(1~5節)は誰もが悔い改めなければならないということが教えられており、そのことを説明するためのいちじくの木のとえと考えるとよいであろう。

★豆知識

- ・エルサレムの神殿に犠牲を献げに行ったガリラヤの人々が、そこでピラトに殺され、その血が神殿での献げものに混ぜられたという事件が起こり、人々はその人が罪深い者だったと考えたのであろう。また、シロアムの池の近くにあった塔が倒れ18人が犠牲になるという事故があり、その人々についても罪深かったからと考えたのであろう。しかし、イエスは悔い改めを必要とするのは、悲惨な死に方や不慮の事故で命を落とした人たちだけでなく、すべての人だと教えられた。
- ・レビ記19:23~25に「果樹を植えるときは、その実は無割礼のものと見なさねばならない。それは三年の間、無割礼のものであるから、それを食べてはならない。四年目にすべての実は聖なるものとなり、主への賛美の献げ物となる。五年目にあなたたちはその実を食べることができる」とある。主人がこの年にいちじくの実を見つけても三年はそのままとし、四年目の実を主に献げ、五年目に食べることができるのである。

★説教

「桃栗三年、柿八年」という言葉を知っていますか。桃や栗は芽が出てから3年で実をつける。柿は8年で実をつけるということです。イエス様は、桃や柿でなく、いちじくという果物のお話をされました。

あるぶどう園の隅にいちじくの木が植えられていました。ぶどう園で働く人たちがその木陰で休んだり、そのいちじくの実を食べたりするためです。ところがこのいちじくの木、ちっとも実をつけないのです。それでそのぶどう園の主人が、ぶどう園で働いている一人に言いました。「このいちじくの木は、実をつける頃だと思ってからもう三年もたったが、ちっとも実をつけない。だから切り倒してしまいなさい。」けれども、その人はぶどう園の主人にこう言ったのです。「お願いします。もう一年待ってください。木の周りを掘って肥料をやってみます。そうすれば来年は実をつけるかもしれません。それでもだめなら切り倒してください。」

イエス様のお話はここで終りです。その後、どうなったのでしょうか。実をつけたのでしょうか。

それとも実を付けずに切り倒されてしまったのでしょうか。イエス様は、あなたはどう思いますかと私たちに質問をされているのではないかと思います。そして、もうひとつ、もしあなたがいちじくの木だったらどうですかと質問されているのではないかと思います。私たちが実をつけるということはどういうことでしょうか。それは神様のところに帰っていくということです。

例えば、私たちが悪いことをしてしまったり、約束を破ったり、嘘をついたり、友だちの悪口を言ったり、誰かに意地悪をしてしまったようなとき、私たちの心は神様から離れてしまっています。だから私たちは神様にごめんなさいと言って、神様のところに帰っていかねばならないのです。そのことをイエス様は待っていてくださいます。神様にもう一年待ってくださいと頼んでくださっているということです。それだけではありません。

イエス様のお話では、ぶどう園で働く人は、主人にもう一年待ってくださいと頼んで「それでもダメなら切り倒してください」と言いました。実をつけなければ次の年には切り倒されてしまうということです。けれども、イエス様は私たちのために次の年もその次の年も、何年も何年も「もう一年待ってください」、「後一年待ってください」と頼み続けてくださっているのです。誰一人切り倒されてしまったりせずに、みんなが神様のところに帰ってくることを待っていてくださるということです。だから私たちも神様から心が離れないように、もし離れてしまったら素直にごめんなさいと言って神様のところに帰っていくことができるようにしたいと思います。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

90番

改訂版126番

やってみよう

イチジクは世界で一番古くからある果物かもしれないことがわかってきました。挿し木で増えるため、栽培が簡単だそうです。

※許される環境にあるなら、イースター（春）に向けプランターなどに花の種を蒔いたり、挿し木をする。

※（イースターの準備）お花や果物の絵をたくさん描き切り抜く。

イースターまでストックしておく（イースターにみんなで飾る）。

はなそう

「罪を犯す」とはどんなことをしてしまうことでしょうか。

★暗唱聖句

「父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き接吻した。」

ルカによる福音書 15章 20節

★ねらい

- ・長いので兄が登場する部分は割愛した。そのまま話しても説教となるたとえ話である。

★ポイント

- ・悔い改めは単に反省ではなく、罪を認めて神へと方向転換をすることである。自分の罪に気づき父の許に帰って罪を告白しようとしたところから弟の悔い改めが始まっている。

★豆知識

- ・当時、子が父に財産を要求することは有り得ないことだった。また、父が活着しているうちに財産を分け与えられることがあっても、子はそれを自由に使うことができなかつたようである。申命記 21. 17~21 に「ある人にわがままで、反抗する息子があり、父の言うことも母の言うことも聞かず、戒めても聞き従わないならば、」「町の住民は皆で石を投げつけて彼を殺す」と規定されている。この規定に従うならば、弟は死罪に相当する。

★説教

お父さんは毎日待っていました。息子が帰ってくるのを待っていたのです。お父さんには二人の息子がいたのですが、弟の方が家を出て行ってしまったからです。毎日、家の前に出て遠くを見ながら、遠くに小さく人が見えると息子かもしれないと思って近づいて行って確かめていました。しかし、いつも息子ではありませんでした。

もうだいぶ前のことです。弟が「私が頂くことになっている財産をください」と言ったのです。財産とはお金や牛や羊など、生活するための大切なものです。お父さんが死んだ時には、二人の息がお父さんの財産を受け取ることになるのですが、弟は「今、私にください」とお父さんから財産をねだり、それを受け取って牛や羊は売ってお金に買えて、そのお金を全部持って家を出て行ってしまったのです。弟は欲しい物を買ったり、おいしいものを食べたり飲んだり、友だちと大騒ぎをしたり、無駄遣いをして、そのお金をすぐに使ってしまいました。お金がなくなるとそれまでは仲の良かったはずの友だちも離れていきました。住む家も、食べるものもなくなりました。弟は、仕方なく働こうと思いましたが、仕事はなかなかみつかりません。やっと豚の世話をする仕事をみつけましたが、お腹が減って豚の餌でも食べたいと思うほどでした。その時、弟はお父さんの家に帰りたと思いました。もう自分はお父さんから財産を受け取ってしまったし、それを全部無駄遣いしてしまったのだから、前のようにお父さんの家で、お父さんの息子として暮らすことはできないけれど、それでもお父さんにちゃんと謝って、お父さんの家で働かせてもらおうと考えたのです。弟は家に帰るこ

とにしました。

お父さんは毎日、弟が帰ってくるのを待っていたのです。お腹を空かせているんじゃないか、怪我をしたり、病気になったりしてはいないか、辛い思いをしているんじゃないか、そんな心配をしながら弟が帰ってくるのを待っていたのです。今日もお父さんは、遠くを見ながら弟が帰ってくるのを待っていました。すると小さく人が見えました。弟が帰ってきたかもしれないと思って近寄っていくと、今度は間違いのないようです。お父さんは走って行って弟を抱きしめました。弟は言いました「お父さん、ごめんなさい。もうお父さんの息子として暮らすことはできないけれど、お父さんの家で働かせてください。」けれどもお父さんは「今からご馳走を食べて、お祝いをしよう。死んでいるかもしれないと心配していた息子が帰ってきたのだから」と言って大喜びをしたのです。

神様はこのように私たちが神様のところに帰るのを心配しながらいつも待っていてくださいます。そして、私たちが神様と呼びかけると大喜びで迎えてくださるのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

3 4 番

改訂版 5 5 番

やってみよう

※（イースターの準備）イースターエッグやひよこの絵をたくさん描き、切り抜く（イースターにみんなで飾る）。

はなそう

「放蕩息子」と「父親」とは誰の事でしょうか。

★暗唱聖句

「家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。」

ルカによる福音書 20章 17節

★ねらい

- ・使徒 2. 36~38にあるように、息子を殺した農夫たちにも悔い改めの機会が与えられることを伝えたい。

★ポイント

- ・たとえの「農夫たち」は、民の指導者たち、「僕」は神の言葉を伝えるために遣わされた旧約の預言者たちである。
- ・「家を建てる者の捨てた石」は詩編 118. 22 の引用。家を造る専門家が必要ないと考えて捨てた石が建物の基礎となる石となった。イエスの死と復活を表す言葉として用いられている。

★豆知識

- ・イザヤ書(5. 1~7)に、神がぶどう園を造られ、造られたぶどう園がイスラエルにたとえられている箇所がある。この箇所を背景にイエスはこのたとえを話されたと考えてよいであろう。

★説教

ある人がぶどう園を造りました。心を込めて時間もお金もかけて丁寧にぶどう園を造り、ぶどう園の主人になりました。けれども、ぶどう園が出来あがってしばらくして、この人は旅に出なければならなくなりました。そこで主人はある人たちにぶどう園を預けて旅に出たのです。旅の途中で主人はいつも故郷のぶどう園のことを思い出していました。「もうすぐ若葉の季節だ」、「こちらは日照りが続いているが、故郷のぶどう園は大丈夫だろうか」、「そろそろ実をつける頃だがどうだろうか」…。そして、収穫の季節になったので主人は故郷のぶどう園に僕を送ったのです。ぶどう園を預けていた農夫たちから約束どおり収穫を受け取り、賃金を払うためです。ところが農夫たちは、収穫を渡したくないと考えて送られてきた主人の僕をひどい目に遭わせて追い返してしまいました。主人は別の僕を送りました。しかし、その僕も農夫たちにひどい目に遭わされて帰ってきました。主人は三人目の僕を送ったのですが、その僕もひどい目に遭わされて帰ってきたのです。

主人は、ため息をついて「困った…」とつぶやきました。主人は考えて、大切な一人息子をぶどう園に送ることにしました。「この子なら農夫たちもひどい目にあわせたりせず、言うことを聞いてくれるだろう」、主人はそう考えて息子をぶどう園に送ったのです。けれども、主人の考えたようにはなりません。農夫たちは、次にやって来たのが主人の息子だと分かって、この息子を殺してしまおうと相談したのです。そうすれば、ぶどう園が自分たちのものになると考えたからです。けれども、農夫たちが考えたようにもなりません。主人はもう赦すことはできないと怒って農夫たちを懲らしめ、ぶどう園は他の人たちのものになったのです。

これはイエス様が話されたお話です。イエス様は、神様と人々のことをこのようなお話にして話されたのです。ぶどう園の主人は神様、農夫たちは人々です。人々は神様との約束を何も守らず、神様の言葉を伝えるために送られてきた人々の言うことも聞かずに自分勝手に過ごしていたのです。それで神様は困って、神様の独り子であるイエス様を人々のところに送ったのです。お話の一人息子はイエス様です。そして、お話のように、人々はイエス様の言うことも聞かずに、イエス様を十字架につけて殺してしまっただけです。

ただ、イエス様のお話と神様がなされたことで違うところがあります。神様はイエス様を十字架につけてしまった人々にもう赦さないとは言われませんでした。神様はそれでも人々を赦そうとされたのです。神様は、私たちがどんなに悪いことをしても、ごめんなさいと言って帰って来るのを待っておられるのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

63番

改訂版127番

やってみよう

※（イースターの準備）イースターうさぎを描き、切り抜きイースターにみんなで飾る。

はなそう

「ぶどう園の主人の息子」とは誰のことをたとえているでしょうか。

律法学者や祭司長たちが「手を下そう」としたのはなぜでしょうか。

★暗唱聖句

「言うておくが、もしこの人たちが黙れば、石が叫びだす。」

ルカによる福音書 19章40節

★ねらい

- ・イエスをまことの王、救い主として自分の心に迎えるということを共に考えたい。

★ポイント

- ・エルサレム入城は人々にとっては喜びの出来事であったが、その喜びはすぐに憎しみと怒りに変わるのである。イエスは人々の罪の心に入城されたと言える。

★豆知識

- ・ゼカリヤ9.9に「見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／雌ろばの子であるろばに乗って」とあり、ろばに乗ってのエルサレム入城は平和を与える王としての預言の成就のである。
- ・人々が自分の服や木の枝(マルコ11.8)などを道に敷いたり、枝を持ったり(ヨハネ12.13)して、誰かを迎えるというのは人々が自分の王を迎えるときの態度であった。
- ・「石が叫びだす」とある。イエスが王であることに対する人々の理解は間違っていたが、イエスを王として迎えたこと自体は正しく、誰も人々の讚美を止めることはできないとイエスは言うておられるのであろう。

★説教

みんなはロバを見たことがあるかな？ ロバは、馬に似ているけど、馬より小さくて、おとなしくて優しい動物です。そんなロバに、それも子どものロバに乗ってイエス様はエルサレムに向かわれたのです。

「新しい王様だ！」「救い主イエス様が来られるぞ！」「みんなでイエス様をお迎えしよう！」都エルサレムにそんな人々の声が響き渡りました。イエス様が救い主としてエルサレムに入って来られるのです。人々は木の枝や自分の服を道に敷いて、また木の枝を手に持ってイエス様をお迎えしようと準備をしています。自分たちの王様をお迎えするときにそのようにするのです。

やがて「ワー！」という歓声と共にイエス様がエルサレムに入って来られました。イエス様はロバの子に乗っておられます。旧約聖書に王様はロバに乗って来られるとあるからです。けれども、木の枝を振ってイエス様をお迎えしていたある人が心の中で思いました。「あれ、この王様はあまり強そうじゃないぞ。聖書には確かに王様はロバに乗って来られると書いてあるけど、それにしてもなんだか弱そうだ。こんな王様で本当に私たちを守ってくれるか心配だな・・・。」そんなことを思ったのはこの人だけではありませんでした。他にも心の中で同じようなことを思った人が何人もいたのです。人々は王様を待っていました。けれども、人々が待っていた王様は、敵の国から自分たちを守ってく

れる強い王様でした。イエス様は確かに王様だったのですが、そのような他の国の人々と戦う王様ではありません。どこの国の人であっても関係なく、みんなを大切にしてくださるみんなの優しい王様なのです。

人々はイエス様を自分たちの王様としてお迎えしたのに、こんな人は私たちの王様じゃないと考えて、すぐにイエス様から離れていってしまいました。離れていったばかりではありません。こんな王様はいらない、殺してしまえ、十字架につけてしまえとまで言ったのです。イエス様は何日かして本当に十字架につけられて殺されてしまいました。でもイエス様は、最初からそのようにして人々がご自分から離れていくことを知っておられたのです。人々が自分から離れていくと分かっている、それでも人々のことを大切に思っておられたから、人々の王様としてエルサレムに来られたのです。

イエス様は私たちの心にも優しい王様として来てくださいます。「こんな悪いことばかりしている子の心はいやだ」と言ったりはなさいません。どんな子の心にも必ず来てくださいます。けれどもイエス様は「ごめんなさい」と言ってお迎えすることを待っておられるのです。私たちが「ごめんなさい」と言ってお迎えに赦していただくとき、私たちの心の中は元気になるんだね。

★分級への展開

さんびしょう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

33番

改訂版 82番

やってみよう

※「今週の金曜日はイエス様が十字架にかかったことを覚える日です」の説明をして、画用紙、または折り紙で十字架を作る。

※（イースターの準備）自分の絵を描き、切り抜いてストックしておく。

はなそう

今週の金曜日はイエス様が十字架にかかったことを覚える日です。

イエス様はなぜ十字架にかかったのでしょうか。

イエス様のお苦しみを覚えて、1週間、生活の中でなにかを我慢することにチャレンジしてみよう。たとえば「好きなお菓子を食べること」とか「好きな漫画を読むこと」とか…。

★暗唱聖句

「あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。」

ルカによる福音書 24章6節

★ねらい

- ・復活の主は、今も生きておられ私たちと共におられることを伝えたい。

★ポイント

- ・イエスは御自分が復活されることを弟子たちに話された(ルカ 9.22, 18.33)。イエスの言葉を信じるのが、復活を信じることである。
- ・ルカ福音書が記す復活の最初の証人は婦人たちである。彼女たちは天使からイエスが復活されたという知らせを聞くのである。復活の主と再会する前に、主の復活を告げる言葉を聞くということがある。

★豆知識

- ・当時の墓は、岩壁を横に四角く掘り、その内部の3つの側面に更にいくつかの深い穴を掘り、その棚状の穴に遺体を安置するものであった。一つの墓に家族が共に埋葬された。

★説教

朝早く、空は薄暗い頃、マグダラのマリアさんと何人かの女の人たちが、急ぎ足でお墓に向かっていました。みんな悲しい顔をしています。イエス様が十字架にかけられて殺されてしまったからです。それで亡くなられたイエス様にお別れをしたいと思って、亡くなられたイエス様をお納めしたお墓に向かっていたのです。けれども、ひとつ問題がありました。お墓の入り口には大きな石が置いてあって、その石をどけなければお墓の中に入ることができないのです。マリアさんたちには石を動かすことはできません。どうしようかと思いつつ、それでも少しでも早くイエス様のお墓に、イエス様の近くに行きたくてみんなでお墓に急いでいたのです。

お墓に着いてマリアさんたちはびっくりしました。石が転がしてあって、お墓の入り口が見えていたのです。どうしたのでしょうか、誰かがきたのでしょうか。マリアさんたちはお墓の中に入って見ました。お墓の中に入ってまたびっくりです。イエス様が見当たらないのです。誰かが亡くなられたイエス様の体を持って行ってしまったのでしょうか。

マリアさんたちが困っていると、みんなの前に輝く白い服を着た二人の人が現れました。天使です。マリアさんたちが驚いていると、天使はマリアさんたちに言いました。「どうして、生きておられる方をお墓に来て探すのですか。イエス様はここにはおられません。生き返られたのです。イエス様が『わたしは十字架につけられるが、三日目に生き返ることになっています』とおっしゃっていたのを思い出してください。」天使にそのように言われて、マリアさんたちは、イエス様が確かにそうおっしゃっていたのを思い出しました。

死んだ人が生き返るなんて、聞いたことがありません。マリアさんたちはイエス様が生きておられると聞いてもすぐには「よかった」という気持ちにはなれないように思いました。そんなことあるわけない、そんなこと信じられないという気持ちが心の中から湧き出してくるからです。けれども、天使はマリアさんたちに、イエス様がおっしゃっていたことを思い出してくださいと言ったのです。イエス様は「わたしは十字架につけられるが、三日目に生き返ることになります」と言われたのです。そのことを思い出すと本当かもしれない、イエス様の言葉を信じてみたいという気持ちが出てきたのです。

イエス様は生き返られました。今も生きて私たちと一緒にいてくださるのです。「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ 28.20)イエス様は私たちにもそう言ってくださったのです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか” (日キ版) より

40番

改訂版 86番

やってみよう

※お互いにイースターのお祝いを交わす

※イースターエッグ (またはそれに代わるもの) 探し

※ストックしてある絵などをみんなで飾る。

※画用紙にひよこの絵を描き、色を塗りしおりにする。

はなそう

お墓に行った女の人たちはどんな気持ちだったでしょうか。

話を聞いた 11 人と他の人たちはどんな気持ちだったでしょうか。